

事業所名	こども発達LABO. Proリハ牟佐				支援プログラム (児童発達支援)	作成日	令和 6 年 12 月 1 日
法人 (事業所) 理念	子どもの福祉から始まるまちづくりを通して、地域共生社会を実現する						
支援方針	本人・家族の困り感に寄り添いながら、アセスメントの中から必要とされる支援を考え行います。						
営業時間	8 時 30 分から	17 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり	なし		
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団・個別療育の中で、排泄後の身だしなみを促したり、靴下をまとめる、履くなど、身近な生活習慣が身につくように促し、発達段階にあった介入をていきます。 ・本人との支援者の良好な関係を作ることで、社会の中での自立した個人として相互の関係を構築していきます。 ・生活習慣の確認などを行い、保護者に適切なアドバイスを行っていきます。 ・心身ともに健康で生活できるように個々の特性や発達段階を踏まえて、事前に異変に気づけるよう丁寧に観察をしていきます。 ・手先の活動を通し、生活動作の獲得ができるように支援します。 ・構造化、視覚支援 (スケジュールボード、トークン、モデリングなど) を通して療育環境を整え、安心して過ごすことができるように支援します。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・個々や成長段階に合わせたサーキット遊び等を行い身体を支える土台を育てていきます。 ・発達段階に合わせたサーキット、トランポリン等のダイナミックな運動を通して、前庭覚、固有受容覚の刺激を取り入れボディイメージの発達を促す活動をしています。また、身体の土台となる部分を養い、日常生活に必要な姿勢保持や、上肢下肢の運動スキルを積み上げていきます。 ・個々の特性に応じ、感覚刺激を多く取り入れたり、苦手な刺激を取り除く等の配慮を行います。 ・身体を支える遊びや、手先の感覚遊びを通しての手の機能を高めていく課題に取り組んでいます。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・製作や散歩等、実体験を通して長さ、かさ、厚さなどの五感を使った遊びを通して、認知発達を促しています。 ・絵カードやタイマー、スケジュールなど視覚支援ツールなどで環境調整を行うことで感覚刺激を減らし、注意を持続できる環境を作り、活動できる時間を伸ばしていきます。 ・苦手な活動に対し、回避行動ではなく絵カードや言葉で伝える促しを行い、自分のペースで無理なく参加できるように声をかけています。 ・絵カード指示などで見通しのもてるプログラムを行い、スモールステップで自己肯定感を育む支援をします。 ・太田ステージ等の検査結果を参考に、発達段階に合ったプログラムを提供します。その場に合った適切な行動を促し、行動障害の予防を行います。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で必要に応じてカードを使用したり、援助要求など自発的に取組ができるように支援しています。 ・遊びの中で支援者とのやりとりを通し、援助要求や思いを伝える経験をします。 ・褒められたり、認められたりすることで自信が付き自己肯定感を高めるとともに、積極的に活動に参加できるように促していきます。 ・支援者とのやり取りの中で援助要求、また自分の気持ちを伝える練習を行っていきます。 ・個々の状況を考慮し、指差し、身振り、サインなどを用いて意思の疎通、コミュニケーションがとれるように進めていきます。 ・聞く、伝える等の課題を通し、他者の言語を受容したり自分の意思を伝えるなどの表現活動を支援します。 					
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活への参加をみこした活動の展開を目指します。 ・受着形成や、人との信頼関係を築き、安定した関係づくりを行います。マッチング、模倣活動からスタートし、一人遊びから並行遊び協働遊びへとすすめ気持ちのコントロールやルールを守って遊ぶことができるよう社会性の発達を支援します。 ・支援者とのやり取りやおつかいなどを通して、人との関わり社会性を身につけていきます。 ・絵カードの提示、PECSを用い、コミュニケーションの取り方を学んでいきます。 ・児の興味関心ある題材を使い、自信をもってやる楽しさを実感しながら、コミュニケーションの楽しさや達成感を味わう活動に取り組めます。 					
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の言葉に耳をかたむけ、必要な支援について話をしたり、ニーズを伺いながらプログラムを進めています。 ・療育の内容、目的を把握し、簡潔に保護者に伝えています。 ・本人の自宅、園での様子、ご家族の心配・不安などを傾聴しながら今後のプログラムについての見直し、検討をします。 ・お子さんの感覚の特性などを尾お伝えし、特性についての理解を促していきます。 			移行支援	日常的な連携に加え、特に行事等の際には、説明の方法や促し方について共有を図っています。		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と協力して、地域での生活について考えていきます。 ・地域への啓蒙活動として、地域のイベント、親の会などのイベントに参加をしています。 ・定期的に自立支援会議に参加をしています。 ・地域の資源を把握できることで、お子さんに合った資源につないでいく活動をしています。 			職員の質の向上	事業所内、外でのさまざまな勉強会に参加、法人内研修 (虐待防止・身体拘束等適正化研修、感染症対策研修等) に参加をし、職員の質の向上を促しています。 細やかな情報共有の機会を持って、職員同士の連携を図っています。		
主な行事等	<p>小集団：児の発達段階に合わせた方法で、四季の題材、シール貼り、塗り絵等の製作、避難訓練、散歩 (秋ごろ) 定期的な描画 (月1回)。</p> <p>個別：児の発達段階に合わせた方法で、四季の題材、遊び道具 (スライム等) シール貼り、塗り絵等の製作、散歩 (虫とり・めだか取り・ザリガニ取りを含む)</p>						